

のものまでいろいろの段階のものがあるて連続するし、手もとの標本の中では武蔵奥秩父や下野古賀志山産のものにはこれに近い毛があるし、肉眼や虫めがね的には無毛と思われるものにも低倍率の顕微鏡では案外多数の毛が見えることなど数々のお教えをいただいた。さっそく顕微鏡で見たところ無毛型と思っていた標本にも毛のあることがわかった。しかもそのほとんどが腺毛で、腺毛でないものも発育すれば腺毛になるかも知れないような形態のものであることがわかった。

(四国女子短期大学生物研究室)

○ *Bidens* 属の新外来品オトメセンダングサ (浅井康宏) Yasuhiro ASAI:
On a new alien weed, *Bidens aristosa* (Michaux) Britton in Japan.

センダングサ属 *Bidens* の植物は、種類も極めて多く、現在までに我国へも数種のもの
の帰化が報告されているが、ここに北アメリカ原産の大形の美しい舌状花をつける 1
種の渡来を追加記録しておきたい。

これは、筆者が最近、東京都内の外来雑草フロラを調査中、その存在に
気付いたもので、種々検討の結果、
Bidens aristosa (Michaux) Britton と判定した。



Fig. 1. Flowering branches of *Bidens aristosa* (Michaux) Britton found at Shinagawa, Tokyo.

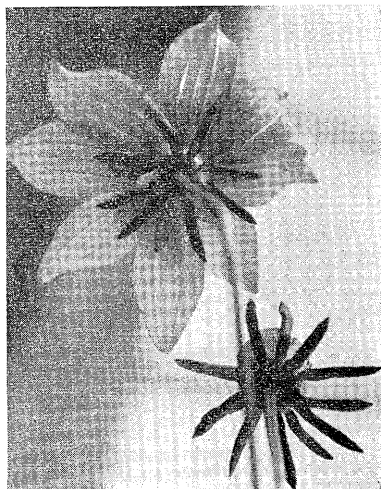


Fig. 2. Flower heads of *B. aristosa* (Michaux) Britton.

本種は 1 年草で、草丈は 1 m 内外に達し、葉は対生、羽状複葉をなし、各小葉は線状披針形で、葉辺に顕著な粗鋸歯をもつ。花は本種の米名 Tickseed-Sunflowers が示すように、本属の中でも可成り大きく、ちょうど Fig. 1 の如くヒメヒマワリの花型を想わせる外観を有する。舌状花弁は濃黄色を呈し、6~10 個で、長さ 2 cm 内外。なお Fig. 2 に示すように、外側の総苞片は線状で 10 内外、ほとんど無毛であるが、辺縁にわずかに毛を有する。因みに本種は、同じく北アメリカ原産の *Bidens polylepis* Blake に酷似しているが、これは種名が示すように、外側の総苞片がより長く、数も 12~25 と多く、しかも有毛であるので区別出来る。しかし、この両者は極めて近縁のものであって、これを別種とせずに、本種の範疇に含め、変種とする見方もある。

本種は元来、低湿地を好んで生育するもので、8~10 月にかけて開花する。恐らく今後、各地の同様な条件の場所に分布する可能性があり、同学諸氏の注意を望みたい。なお和名は、比較的瘦長な花茎に、可憐な大形の舌状花をつけることに因み、オトメ(乙女) センダングサの名を与えた。

Summary A North American Beggar-ticks, *Bidens aristosa* (Michaux) Britton was newly recorded from Japan as an alien weed. The plants were found on sunny waste site of Shinagawa, Tokyo, central Honshû in Sept. 5, 1970. (東京歯科大学)

○ヒートシールによる標本貼付 (金井弘夫) Hiroo KANAI: Heat seal method, a new idea on mounting specimen.

我が国では標本を貼付するには紙テープと糊によるのが常道である。東大での方法は和紙にアラビア糊を塗って乾かしたものを細く切っておき、必要に応じてこれを更にアラビア糊液でぬらして貼付に用いている。この糊付和紙は特注品であるが、最近では手数がかかるため職人が作るのを好まなくなっている。と云って、ただの和紙とアラビア糊では接着に時間がかかり、強度も落ちる。また湿式であるために色々不便も多く、理想的なやり方とは云い難い。

ここに紹介するのは、簡単に言えばポリエチレンを接着剤として紙テープをハンダ鍋で熔着する方法である。最も原始的には紙テープと台紙の間にポリエチレンシートの小片をはさみ、熱いハンダ鍋で圧せばよい。しかしこれではポリシート片をはさむのに手間がかかり、熔けたポリエチレンがはみ出したりして見映えが悪い。白色のポリエチレンラミネート紙が手に入ればこれを細く切って用いるのが最も便利である。これが手に入らなければ、ゴム板の上にポリシートと和紙を重ねてアイロンをかければラミネート紙を作ることができる。ハンダ鍋は先端を斜形に削って圧着に便利ないようにし (Fig. 1)、柄を切り縮めて扱い易くする。温度が上りすぎると紙を焦がすので、適当な電流調節装置をつけるとよい。